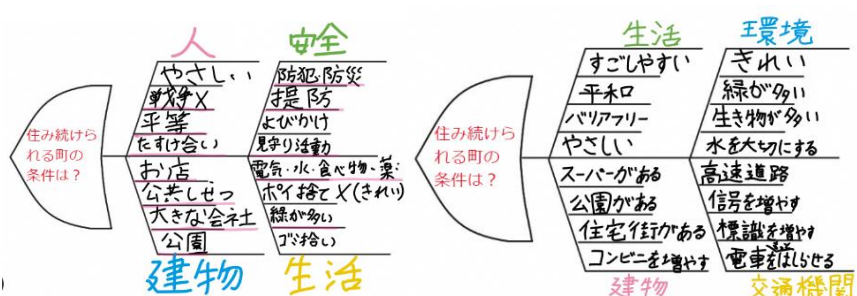


1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	矢掛町立矢掛小学校	実践者名	山崎 隆志
教科等	総合的な学習の時間	学年	第6学年
		端末活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成したい 資質・能力	タブレットを活用しながら、グループの考えを思考ツールにまとめそれをもとに今後探求したい課題を設定できる力		
単元・内容等	矢掛の魅力 再発見！ ～ “住み続けられる町矢掛町” を目指して ～		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	昨年度からスクールタクトという授業支援システムを用いて学習する経験を多く取り入れてきたため、使い方についてはよく理解しているが、教師主導の活用が主で、自分たちで考えて活用しようとする姿はまだ少ない。		
活用の概要（使用アプリ名を含む）			
(1) 自分の考える「住み続けられる町」の条件を書き出す。 (2) スクールタクトを用いて、グループの意見を「フィッシュボーン図」に表し、整理する。			
			
※共同閲覧機能を活用し、他のグループの意見も参考にできるようにする。			
(3) フィッシュボーン図を用いて、グループの意見を発表し全体の意見を集約する。 (4) 現在の矢掛町と全体で考えた「住み続けられる町の条件」を比べ、さらに調べたいことや今後取り組んでいきたいことについて話し合い、課題を立てる。			
※児童が設定した課題例 「矢掛町にはどんな会社があるのか。」 「新たなお店を設置するためにはどんな条件が必要となるのか。」等			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
思考ツールを活用することで、グループの意見を観点別に集約することができた。スクールタクトの活用にも児童が慣れていたこともあり、活動をスムーズに行うことができた。しかし、思考ツールを用いているような視点で意見をまとめたが、矢掛町と比べる時は一つの視点だけで判断している児童が多かったため、展開を見直したい。		(児童のようす) 思考ツールを使うことで、グループの意見をさまざまな視点でまとめることができた。矢掛町と自分たちが考えた「住み続けられる町の条件」を比べる場面では、自分たちの考えを検証するためにタブレットで情報を集めることで、自分たちの知る情報が少ないことに気付き、新たに調べたいという気持ちを高めることができた。	

